

皆さん、明治高校・中学地学部へようこそ。

早速ですが、最初にカシオペア座と北斗七星を使った北極星の見つけ方から説明します。

カシオペア座の場合、外側の2つの星を結び、交わった点と中央の星を結んで、北の方向へ5倍伸ばすと北極星が見つかります。

北斗七星の場合は、北斗七星のひしゃくの器にあたる部分の2つの星を結んで、5倍に伸ばすと、北極星が見つかります。

それでは、春の星座から説明していきましょう。

これがおおぐま座です。先程説明しました「北斗七星」という名前がよく知られています。

おおぐま座は全天で3番目に大きい星座です。

これはこぐま座です。こぐま座の尻尾の先端にある星が「北極星」です。北の方角を知るのに欠かせない星です。

どちらも一等星を持ちませんが、非常に目立つ星座です。

これがおとめ座です。この星座には、1等星のスピカがあります。白色で地球からの距離は142光年です。

これはうしかい座です。一等星のアルクトゥルスがあります。橙色の大きな星で、直径は太陽の約24倍にもなります。

これがしし座で一等星はレグルスです。また、しし座の二等星テネポラとアルクトゥルス、スピカを結ぶと「春の大三角」ができます。春の星座はこれらの他にもかに座などがあります。

次に夏の星座です。これがはくちょう座で、1等星はデネブです。色は青白い色をしています。これはこと座です。こと座の1等星はベガで、白い色をしています。

天の川の向こう側にあるのがわし座です。わし座の1等星はアルタイルで白い色をしています。これらの3つの星座を結んだ形を「夏の大三角」と言います。ちなみに日本では昔からベガを「織姫」、アルタイルを「彦星」と呼んできました。

これはさそり座です。一等星はアンタレスで、赤い色をしています。夏の星座はこれらの他にもいて座やてんびん座、へびつかい座があります。

秋の星座で明るい星はあまりないのですが、アンドロメダ座とペガサス座の星の4つを結ぶと、「秋の大四辺形」ができます。

ここで、ペガサス座の神話を紹介しましょう。このペガサスはゴルゴン3姉妹の一人であるメドゥーサから生まれました。勇者ペルセウスがメドゥーサの首を切り落としたとき、誕生したのがこのペガサスです。

これがみなみのうお座です。一等星は白色のフォーマルハートです。フォーマルハートは、アラビア語の「魚の口」という意味からきています。

これがカシオペア座です。一等星を持ちませんが、アルファベットのWの形をしているので、比較的見つけやすい星です。この星座は、日本では、いかり星と呼ばれていました。

秋の星座はこれらのほかに、みずがめ座などがあります。

最後に冬の星座です。

これがオリオン座です。この星座には赤く輝くベテルギウスと、白く輝くリゲルという2つの一等星があります。昔から日本では、ベテルギウスを『平家星』リゲルを『源氏星』と呼んでいました。

また、中央に並んでいる3つの2等星は「三ツ星」と呼ばれます。ではここで、オリオン座の神話を紹介しましょう。

オリオンは背が高くたくましい、狩りの名人。そのうえ、力も強かったので有頂天になっていました。そのため、乱暴な振る舞いが目立つようになりました。オリオンの振る舞いに神々は大変怒り、大サソリをさしむけました。さすがのオリオンもサソリの毒針にはかなわず、足をさされて命を落としました。そのため、星座になった後もサソリを恐れて夏の空には出てこないというわけです。

これがふたご座です。一等星は橙色に輝くポルックスです。

その横で青白く輝いているのが二等星のカストルです。

これはおおいぬ座です。一等星はシリウスです。

シリウスとは「焼き焦がすもの」という意味です。この星は全天で最も明るい星です。

これはこいぬ座です。

一等星はプロキオンで、色は白色です。

オリオン座のベテルギウスとおおいぬ座のシリウスとこいぬ座のプロキオンとを結んだ線を「冬の大三角」と言います。

これがおうし座です。一等星は赤く輝くアルデバランです。

これがぎょしゃ座です。一等星のカペラがあります。

最後に、星座の見つけ方のコツをお教えしましょう。ひとつは「一度にたくさん覚えようとしない」ことです。

まず、一等星のある星座から覚えましょう。

2つ目は「方角を決めて見る」ことです。見る方向が毎回違っては覚えにくいからです。

3つ目は、「特徴のある形を覚える」ことです。

4つ目は「星座早見盤を活用する」ことです。

事前に星座の位置や時間を知っておけば、夜空を見上げたとき星座を見つけやすくなります。

簡単ではありますが、以上で説明を終わります。